

浦島伝説の里に
水族館を夢見て

むかしむかし、
庄内半島に浦島太郎が
住んでいました
太郎は亀に乗って・・・

みとよんと学ぶ

先手の防災

緊急地震速報が放送された**その時！**
の対応を学びます。

M's Lesson ⑧

避難は徒歩で

地震が発生したときは、消防車や救急車、物資輸送車などの緊急車両の通行を確保することが大切です。

みんなが車を使って避難すると、緊急車両や避難する人の邪魔になり、混乱します。山間部など、どうしても車で避難しなければならない場合を除き、徒歩で避難するようにしましょう。



三豊市の人口

※平成26年10月1日現在 ()内は前月比
世帯数 23,321 世帯(-17) 総人口 66,162 人(-83) 男 31,513 人(-51) 女 34,649 人(-32) ※香川県人口移動調査による

広報 **みとよ** 11月号 目次
平成26年 contents

- 3 特集 守るために 変える
- 14 M's Information みとよくらしのおしらせ①
人権擁護委員 / 成人式 / 日本一名誉賞 / ものづくり大賞 / 特定公共賃貸市営住宅入居者募集 / 国民年金
- 16 みとよHOT ほっとNEWS(ホットニュース)
- 18 M's Information みとよくらしのおしらせ②
臨時給付金 / がん検診 / 税務署からのお知らせ / 農地中間管理機構 / 読書通帳 / さぬき軽トラ市 / 大坊市 / 三豊ドリームカーフェスタ / マリンウェーブフェスタ / 青少年健全育成講演会 / 文書館秋期企画展 / ガーデニングボランティア募集 / 文化協会文化祭 / プレミア付き商品券
- 25 M's 深読みひろば
男女共同参画 / 文化財
- 26 11月のお知らせ
募集 / 相談 / 講座・教室 / イベント / 納税のお知らせ / マリンウェーブ情報 / 国際交流協会
- 29 保健・相談
- 30 ここ笑み通信 ～子育てするなら三豊が一番！～
子育てホームヘルプ事業 / 児童虐待防止推進月間 / 水痘予防接種 / ウィズの会 / M's Smile ふおとぎやらしい / 乳幼児健診 など
- 32 みとよ写真帳 / 編集後記

表紙

今月の市民力



誇のメンバー 左から今川宗一郎さん、浪越弘行さん、三野秀樹さん

平均年齢38歳の5人で構成される一般社団法人「誇」の皆さん。若い力が集まり、仁尾の町並みをかつて繁栄していた時代のような活気あふれるものにとしようと、力を尽くしています。まずは50年近く空き家になっていた松賀屋を再生。この場所が、市の観光の一つの拠点になると同時に、ここに人が集うことを新しいコミュニティをつくる場所になることを願っています。ここで暮らす人、ここに来る人、これからの子どもたち。何十年後も、みんなが笑顔でいられるようにと、活動をしています。



9月26日、記者懇談会の席で、水族館の建設実現に向けた思いを記者に話す横山市長

水族館誘致へ

協議を開始

9月26日、横山市長は、記者懇談会の席で、詫間町内にある造船所跡地を取得し、危惧されていた防潮対策を図るとともに、民間企業による水族館の誘致を進める計画があることを明らかにしました。

うどん県の新たな観光拠点へ

今回取得したのは、さぬき浜街道沿いに位置する広さ2・4 haの土地。詫間港に面し、護岸整備が施されていないことから、市では早急な整備が必要であると判断し、土地取得の検討を進めてきました。6月の定例議会に取得費1億円を盛り込んだ補正予算案を、9月議会で土地の取得に関する議案を提案し、可決されました。

市が交渉を重ねてきたのは、水槽用アクリルパネルの世界的メーカー、日プラ株式会社（三木町）。瀬戸内海に生息する生き物の保護、育成を目的とした水族館の誘致について協議を進めてきました。同社は、世界50数カ国に納品実績があり、日本では海遊館（大阪）や沖縄美ら海水族館で製品が使われています。圧倒的な品質の良さは国内に留まらず、海外にも認められ、水族館用大型アクリル板の製造では、世界の約7割を占める、香川県が誇る世界一の企業です。



横山市長は記者懇談会の席で、水族館建設は、まだ最有力候補に留まることを強調したうえで、次のように説明報告しました。

「もし水族館が三豊市にできることになれば、市という狭い範囲のものではなく、うどん県レベル、瀬戸内海レベルの観光の一拠点としてとらえるものだと思います。建設予定地は広島県福山市などから船で行き来できるポイントにあるので、将来的には海からの移

動も可能です。そういう意味でも瀬戸内海レベルになると思います。水族館については、世界中でここだけの水族館になるといいなと思っています。

昨年の瀬戸内国際芸術祭で経験したのは、来る人がポイント主義だということ。水族館だけというのではなく、この場所を拠点に、まわりと一体となって皆さんが楽しめる場所を提供し、エリアでの観光になればと考えています。

うまくいけば県での滞在時間も長くなり、観光が新しい地域づくりになると期待します。国が今推し進めている地方創生のモデルになるように、県をあげてみんなで拠点づくりをしていきたいです。」

市では今後、規模や内容などについて具体的な協議を重ね、建設の実現を目指していきます。



玉手箱から紫の雲が
たなびいた山
紫雲出山

浦島伝説の里 荘内半島



太郎が
生まれた里
生里

● **水族館誘致
候補地**

鴨之越



亀を助けた
鴨之越の浜



荘内半島には浦島伝説にちなんだ地名が多く、伝説が「実話」として息づいています。

生里(なまり)

浦島太郎が生まれた里。その地区の新屋(現在の新田家)という古くからある家に伝わる古文書の中に「先祖が浦島屋敷に家を建てた」という一文があるそうです。

鴨之越(かもこのし)

太郎が亀を助けた浜辺。沖には引き潮になると地続きになる丸山島があり、潮干狩りもできます。丸山島の海辺には、浦島神社がまつられています。美しい夕景に出会える場所でもあります。

箱(はこ)

太郎が玉手箱を開けた場所。箱浦ビスターハウス横の「浦島公園」には太郎の墓があり、太郎が亡くなった地として記念碑も建てられています。太郎の墓はお団子みたいに重ねられた石で、記念碑の後ろに太郎と父母の墓が仲良く三つ並んでいます。箱崎の釣り場には、太郎がよく釣りをして、竜宮に旅立った「どんがめ石」もあります。満潮時にはほとんど見えなくなります。

また、荘内半島を訪れる人の幸せを願う常世亀(とこよがめ)も平

積(つむ)

太郎が竜宮城から宝物を積んで帰り着いたとされる場所。

糸ノ越(いとこのし)

太郎が毎日室浜まで釣りに通い、休憩した石腰掛石もあります。

室浜(むろはま)

太郎が若さを失わないまま、しばらく暮らした場所。不老の浜「不老浜(ぶろま)」と呼ばれています。

紫雲出山(しうでやま)

玉手箱から立ち上った白煙が、紫色の雲になってたなびいた山。荘内半島の中央にそびえる標高352mのこの山には、高地性集落の遺跡群があります。山頂は瀬戸内海を一望できる県内屈指の美観スポット。紫雲出山遺跡からもパノラマのような景色が楽しめます。

仁老浜(にろはま)

玉手箱をあけ、白髪の老翁になった太郎が、母の里で余生を送ったので、仁義深い老人の浜としてこの名になったそうです。

金輪の鼻(かなわのはな)

荘内半島に伝わるお話では、竜宮城から乙姫さまがこの地まで太郎を送ってきた、とされています。別れを惜しんで手を取り合った時に、姫が腕輪を落とした場所が「金輪の鼻」と呼ばれています。

栗島の姫路(ひめじ)

太郎を送り届けた乙姫さまが、潮流の関係で一時とどまり、帰れる潮目になるまで潮待ちをしたとされる場所です。

栗島の亀戎社(かめえびすじや)

太郎を竜宮城へ運んだ亀の死骸

糸ノ越

室浜

仁老浜

生里

上天

紫雲出山

積

金輪の鼻

箱

亀戎社

姫路

栗島



腰掛けると
幸せになれる
常世亀

玉手箱を開け
太郎が眠る地
箱

玉手箱を片手に

観光協会では、荘内半島に残る浦島伝説を一冊のガイドブックにしました。このガイドブックには、伝説スポットが一目でわかる地図や荘内半島の見所、美味しいお店が掲載。あなたも情報の玉手箱を持って、あなたの目で伝説を確かめてみてください。

▶問い合わせ 観光協会 ☎ 56-5880



観光基本計画策定検討委員に聞く

今あるものを知り 共有するところから



富士建設(株)

真鍋有紀子さん

検討委員会が、観光の情報を、ヒト・モノ・場所にかかわらず、集約・発信できる「プラットフォーム」になれば良いと思っています。地域のいろいろな人が取り組んでいることについて学び、情報を共有することで、お互いの活動を尊重しながらも重複することなく、力を貸し合える仕組みができると思いますし、そこから新たな魅力の生まれる可能性も見えてくると思います。

観光産業を頑張るのは、「30年後も三豊市が元気なまちであるため」と、山田先生がお話しの中で言われていました。そのことを忘れないように取り組んでいきたいと思っています。

私は観光ではなく、建設の仕事に携わっていますが、建設業の喜びは、建築を通じて、お客様が夢を叶えていく過程に寄り添えること。まちが活性化することでも、夢が叶ったり、幸せになる人が生まれてくるはずなんです。そのための活動ができればと思っています。

小さいころから 地域を愛する心を育てる



(株)Giallo

大西正人さん

委員会では職業や立場を超えてメンバーがアイデアを持ち寄り具体的なアクションプランへ繋げようと奮闘しています。三豊市が観光を総合産業として育てていくうえで、重要なのは「ヒト」だと考え、一見「観光」とは縁遠いと思われる「教育」という切り口で提言しています。私の友人が言っていました、義務教育の中の授業に「祭り」という科目を入れるのも、面白いと思います。小さい時の良い思い出こそが、大人になってからの故郷を思う気持ちや、地域の事を考える源になると思っています。外の世界に飛び込み挑戦して得る経験はやはり人を大きくすると思います。成長した人が三豊に帰ってきやすい、また離れていても貢献してくれる環境を創ることも、市の成長発展につながる気がします。外から三豊を見ると住んでいる人が気付いていない、十分武器になるものがまだまだたくさん。この委員会を通して、地元にいるからこそ分かる意見と合わせること、新たな発見につなげ、故郷に貢献できたらと思っています。

自分たちが楽しむ ことが魅力を伝える ことに



カシアボニータ

大河内博子さん

訪れた皆さんが市内で使う金額は500円以内が一番多いというデータをこの会で知りびっくりしました。勉強になりますね。

委員会は若い世代が中心。一人ひとりが主張しながらも皆で協力していくのが上手といわれている世代で、これからの地域を考えるいい組織になると思います。

私自身、店をしていて感じるのは、人も人を呼ぶ要因のひとつ。友達のように距離なく話せる間柄は特別な気持ちになるようで、「あなたに会いに来たのよ」とお客様が何度も店を訪れてくれます。観光も人の魅力がミックスされて輝きが増すのだと思います。最近、市外の人に「なんだか、三豊がおもしろそう」と、よく言われます。きっと、それは三豊市の皆さんが楽しそうだから。その楽しい雰囲気、三豊市の人にも伝わって、「なんだかわからないけれど楽しそうだから行ってみよう」ということになっているのではないのでしょうか。

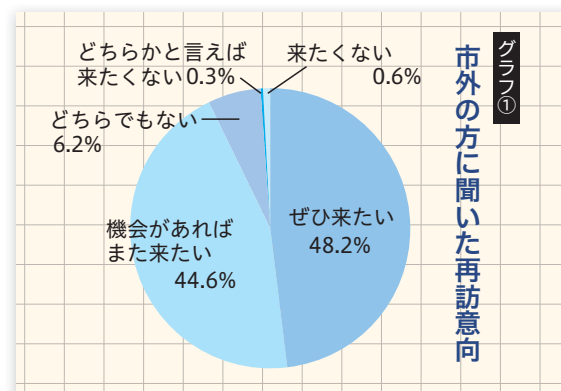
まずは市民の皆さんが三豊市の魅力に気づき、それを楽しむことが観光客を惹きつけるいい効果を生むと感じます。

観光を考える

今なぜ観光か

少子高齢化といわれている今日。三豊市も例外ではありません。市の人口は過去30年間で約1万人減、国立社会保障・人口問題研究所によると、今後30年間でさらに約2万人減になると推計されています。人口が減ることは、必然的にこれまでよりも、地域の力が落ちてしまうということ。これからは、三豊市を訪れる観光客などの交流人口をいかに増やすかが、市の活性化につながると考えられています。

観光が地域を救う



平成25年に行った三豊市観光入込客数等調査によると、本市への観光入込客数は平成21年度から毎年減少しています。また、市外から来たお客さんが「ぜひ来たい」と感じる割合は50%以下です(グラフ①)。

現状です。いかにして観光客に市の魅力を感じてもらおうのか。再び訪れてもらうのか。観光を産業につなげる仕組みづくりが重要になってきます。

市民力で考える観光

この現状を受け、市では観光基本計画を策定することにしました。

計画を作る策定検討委員は、三豊の最前線で活躍する若手事業者25人。観光力リスマの山田桂一郎さんをアドバイザーに迎え、実際に地域で活動する事業者たち、三豊の観光を変えていこうと意欲的に取り組んでいます。その中の3人の委員に意気込みを聞きました。



観光カリスマ 山田桂一郎さん

J T I C . S W I S S 代表
内閣府・国土交通省・農林水産省認定「観光カリスマ」
総務省認定「地域力創造アドバイザー」

1965 年生まれ
1992 年 J T I C . S W I S S (日本語インフォメーションセンター設立)
2004 年 特定非営利活動法人日本エコツーリズム協会理事
2004 年 まちづくり観光研究所主席研究員
2005 年 内閣府、国土交通省、農林水産省「観光カリスマ百選」認定





建坪360坪(約1,188㎡)。階段にはいねいなマツボックリの装飾、柱や天井の板にいたるまで一流の素材が使われています

『入った瞬間に、そのむかしにタイムスリップし、出るときに、現実に戻る気がします』というコメントを本当にたくさんの人から

期間中、華道展や写真展を展開しました。トップレベルのお華の世界観を古民家に合わせることで、家も生かされ、とてもいいコラボレーションになったと思います。こだわりのある精神が松賀屋とマッチし、生き返った松賀屋の姿をたくさんの人に見てもらえたと思います。

「特にうれしかったのは、3日かけて松賀屋の掃除をしたときのこと。仁尾の皆さんが足を運んで一緒に掃除をしてくれて、親身になって松賀屋を考えてくれたね。『この床、うちのじいちゃんを作ったものや』とか『子どもの時、おじいちゃんに来てこの壁貼った』などという声も聞けました。時代を超えて、点と点がつながり、またここを中心にした新たなコミュニティ

「特にうれしかったのは、3日かけて松賀屋の掃除をしたときのこと。仁尾の皆さんが足を運んで一緒に掃除をしてくれて、親身になって松賀屋を考えてくれたね。『この床、うちのじいちゃんを作ったものや』とか『子どもの時、おじいちゃんに来てこの壁貼った』などという声も聞けました。時代を超えて、点と点がつながり、またここを中心にした新たなコミュニティ

新しいコミュニティ

いただきました。手を入れていない経年の美があるからこそ生み出せる空気感があり、こういうところは日本でも少ないのではないかと思います。なんていうんですかね、昭和のにおいというか(笑)。人との距離が近くなる気がします。改めて、あきらめずにいろんな人に会って協力を求め、松賀屋を再生してよかったと思いましたね。」

まるで地中海のよう

カーク・パタソンさん
(カナダ出身)



古い町並みを歩くツアー「仁尾なつかし味めぐり」に参加しましたが、今まで参加したツアーの中で一番よかった！ 荘内半島から望む美しい瀬戸内海の景色は、まるで地中海のよう。きっと多くの人がここに住みたいと感じると思います。歴史深い城下町の古い町並みと瀬戸内海の美しい自然、このおもしろい組み合わせは海外の人や市外の人へのPRポイントになるのではないのでしょうか。私もこのツアーでこの場所に魅せられ、住む家を探しています。ただ住むだけではなくて、コミュニティの一員として地域に貢献したいですね。

が始まることを目のあたりにし、幸せな気持ちになりました。先日外国人が仁尾をめぐると、皆さん松賀屋を大変気に入ってくれ、外国人も古民家に興味を持つんだなと、新たな発見でした。町並みに魅せられここに住みたいという人もいたそうです。荘内半島は外国人にとっても、とても魅力を感じる場所なんですね。これからの時代、こういった皆さんを受け入れるまちづくりが大切になっていくだろうと感じます。

守るために変えようとしている誇の皆さん。「誇」という名前には「地域を誇る」という意味も込められています。

再び命が吹き込まれた松賀屋

「明治時代に建築され、50年間空き家だったのに、あまりずれがなく、プロが見ても建材や建て方がしっかりしている建物。国内だけではなく世界中の人に、このものの良さを楽しんでもらいたいですね。」と一般社団法人「誇」の代表理事 浪越弘行さん(37)。

りでは、「誇」として初めて松賀屋を公開しました。「入場料をいただいたのですが、予想をはるかに上回る人が来てくれました。用意していた3日分のウェルカムドリンクが1日でなくなってしまう大慌てしたほど。でも嬉しい悲鳴でしたね。『松賀屋が開くと聞いて来ました』という市外からのお客さんも多く、正直思っていた以上の松賀屋のブランド力や歴史にズシンとききました。



かつて仁尾で塩業の発展に貢献した塩田忠佐衛門の邸宅跡「松賀屋」。木造2階建ての母屋、離れ、蔵2棟、庭園を含めた敷地面積は約2,800㎡。手の込んだ建築技法が施される文化的価値の高い建物です

三豊市の魅力を見直したり、潜在力を引き出したりし、主体的に人を呼ぶ仕組みづくりに取り組み、地域を活性化させようとしている皆さんを4ページにわたり、紹介します。

一般社団法人「誇」

松賀屋を蘇らせ、そこを中心仁尾の町並みを再生し、観光の一つの拠点を築こうとする動きが始まっています。地域住民を主として活動する「仁尾まちなみ創造協議会」。その中の5人が2014年2月、一般社団法人「誇」を立ち上げました。

「誇」立ち上げる

守るために変える

Change 01



松賀屋から出てきた数百枚の写真からは、当時の生活がうかがえます



Change 02 みんなで思い出に つながる情景を

株式会社香洋石油店

真鍋貴臣さん



庄内半島の夕日や燐灘、多島美の美しさをたくさんの人に知ってもらいたいという思いから、観光業へも事業展開を図りました。車のレンタルに取り組んでいますが、皆さん庄内の風景をとても気に入ってくれます。先日、観光のプロが「リピーターでまた来てもらうためには、風景ではなく情景をつくりましょう」と言っていたのが印象的でした。帰っても風景とともに思い出が蘇るような場所にすることが、もう一度足を運んでくれることになるということです。地元の人があ

さつをしたり、声をかけたりすること、ここならではの思い出につながるそう、私も実践しています。3人の娘がいますが、娘が大きくなったとき、娘の世代やその子どもたちが三豊で暮らし、きちんと生活していけるような「観光マーケット」をつくっていきたいですね。これからは海に向いた一面ガラス張りの一棟立てペンションや他の事業者と組んだプログラムを打ち出していこうと考えています。

Change 03 点ではなく面で

瀬戸内シーサイドマルシェ
実行委員長

陶山正人さん



ウォーターフロントの

コーサイ公園を有効に使い、まちのにぎわいをつくりたいとシーサイドマルシェを始めました。市の産物、花、魚など地元の良さを出し、市外からも集客を図っています。パラスルセットを自由に使い、その下でゆつくりと時間を忘れて海を眺めている人もいますよ（笑）。雰囲気はひたついているというかね。風景や流れる時間もここならではのもの。このようなにぎわい作りは、たとえば今ある市内の夏祭りをまとめて発信したり、イベントとイベントを組み合わせるなど工夫することで、点を線に、線を



ゆったり過ごせるみとよ時間もイベントの魅力の一つ

Change 04 今あるものの 価値に気付いて

フリークラウド

小前昭二さん



仁尾の海で、シーカヤックやサップなど、海の観光ツアーをしています。夕日の美しさ、海の穏やかさ、この落ち着く感覚は「非日常を今ある自然で味わってほしい」という私の探し求めていた条件とぴったり合いました。特に夕日の美しさは格別で、夕方は本当にリラックスできる時間。夕日を見て叫んだり（笑）、泣いて帰ったりする人もいますよ、心が洗われるんでしょうね。

昔の仁尾の海の写真を見ました。風景の良さはちっとも変わっていません。地

Change 05 「らしさ」を生かして

志々島 休憩所くすくす

山地常安さん

元の人とはなかなか気付きにくいかもしれませんが、この風景が守られていることは本当にすごいこと。地元の人が地元のことを好きになることや、どれだけのいいのかに気付くことも、人と呼ぶ第一歩だと思います。シーカヤックを通して、これからも、仁尾の海や風景が守り続けられていることの価値を伝えていきたいですね。

最近大楠を見に来る団体さんが多くなってきました。ここに来る人は皆さん癒やされに来ていると思います。ゆったりとした時間だったり空気の美しさだったり。志々島らしさを残すことが、リピーターの増加につながると 생각합니다。その一環で「花の島」の復活にも取り組み始めました。志々島は昔、花の島と言われていて、除虫菊やマーガレットなど、四季折々、パッチワークのようにきれいだっただけです。それをミツバチやヤギを使った自然な方法で復活できればと思って。ヤギは、雑草を食べてもらったり、マスコットにもなったり、大活躍ですよ（笑）。エコバッグや、Tシャツ、ポストカードなどを作ってマルシェで販売しています。一番人気はヤギのマグカップ。



た時

私たちの世代にはよく分かります（笑）、ネコの肉のピアスな、若い女性、「かわいー」って言うって大人気ですね。

観光客がコンスタントに来るようになり、船に乗る人の待合場所を、島の人もお茶を飲めるところをと、4月に休憩所くすくすをオープン。損得ではなく、「こうしたらきつと喜ばれるだろう」ということをすると結果はついてくると思うんですよね。

日本中、少子高齢化と言われる時代。地域を守っていくためには、考え方を変えないといけません。現状維持は何にもならない。価値観も利益を最優先してい

代から、今の若い人の中ではそこに地域貢献があるのかというように、変わってきています。ここ三豊でも30代の人には本当にいい感覚を持っていると思います。その年代の人たちの、新しいアイデアを実現するために、私たちの年代が手伝いをしていきたいですね。ここでこれまで一生懸命に島を守ってきた島の皆さんや、これからの世代を担う若い人のために、地域を活性させることが私の役目だと思っています。

あなたが一緒に 三豊の観光を 考えてみませんか？

市観光基本計画策定 地区別懇談会

今日日本は、観光こそ、経済を取り戻すための、極めて重要な成長分野とし、観光立国の実現に向け、取り組んでいます。地方も同様。観光産業の仕組みが、これからの地域の存続を守るというわれています。

市では、観光基本計画を策定するために、次の日程で地区別懇談会を開催します。あなたのひとことが絶妙のアイデアかもしれません。参加をお待ちしています。

12月3日（水）

仁尾町文化会館

12月4日（木）

詫間福祉センター

12月5日（金）

山本庁舎

時間 午後7時～9時

▼問い合わせ

産業政策課

73-3013